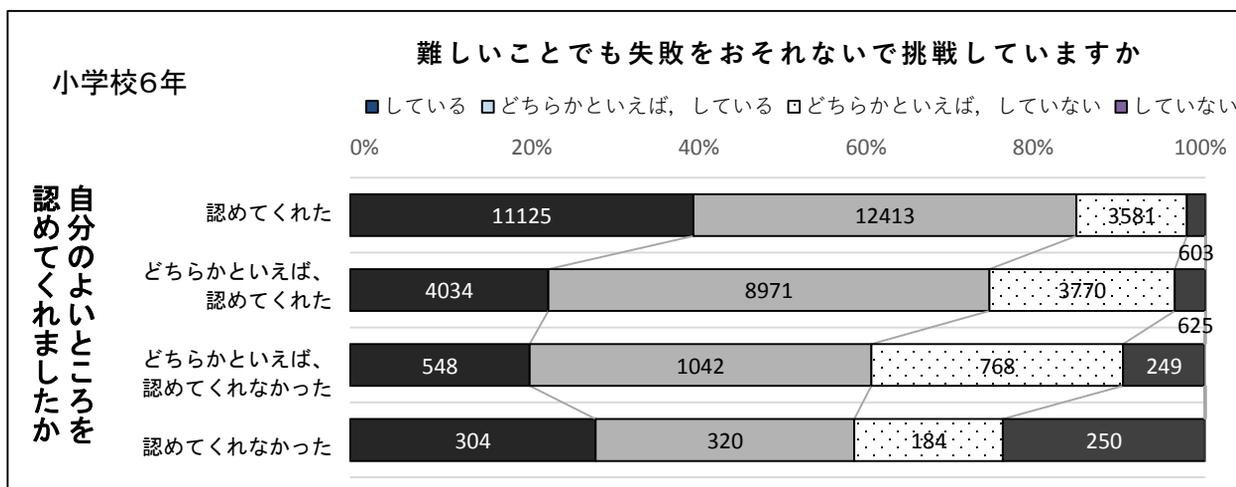
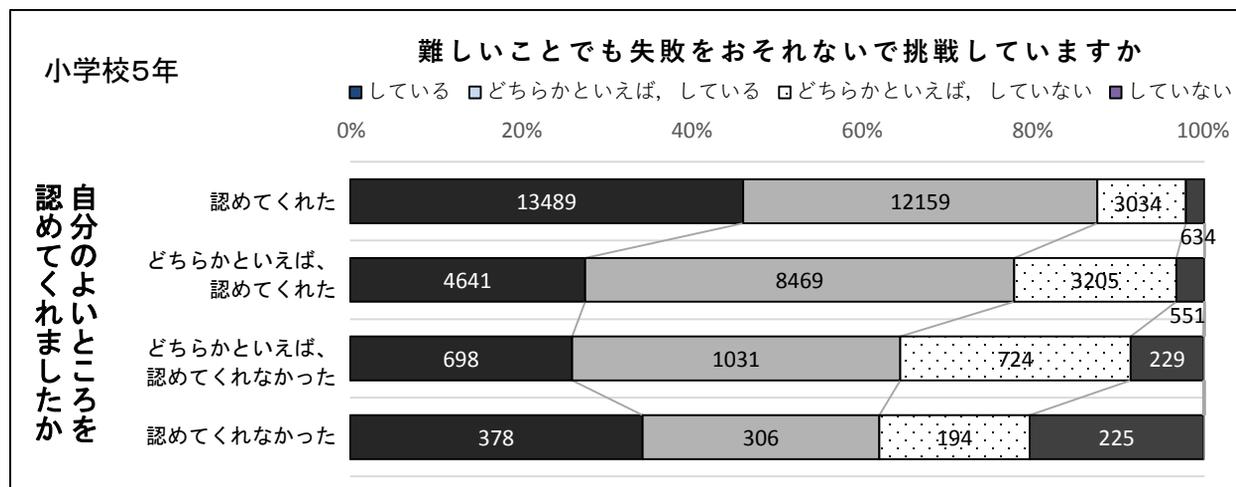
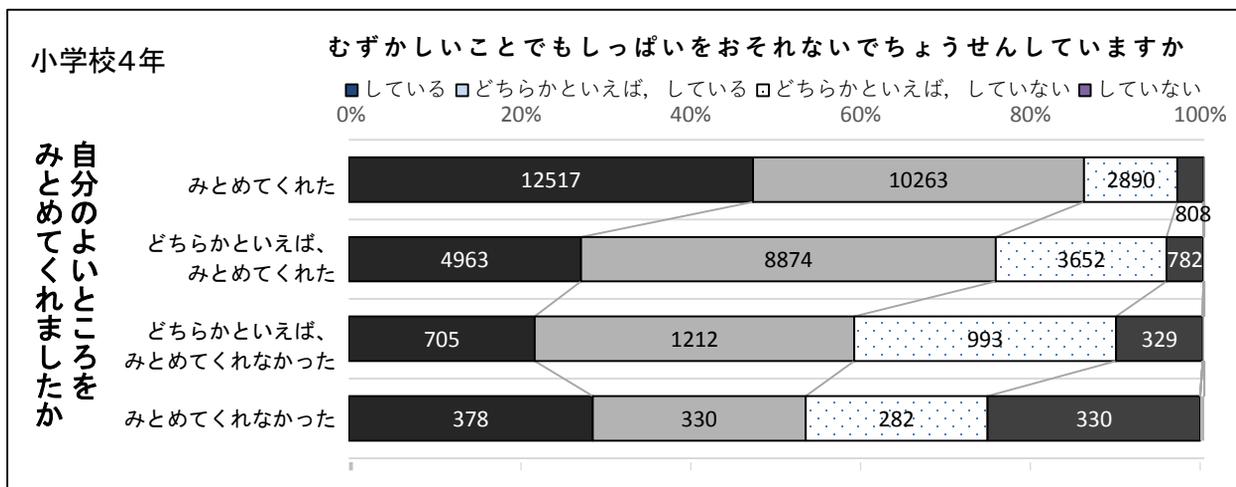


1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関

【概要】

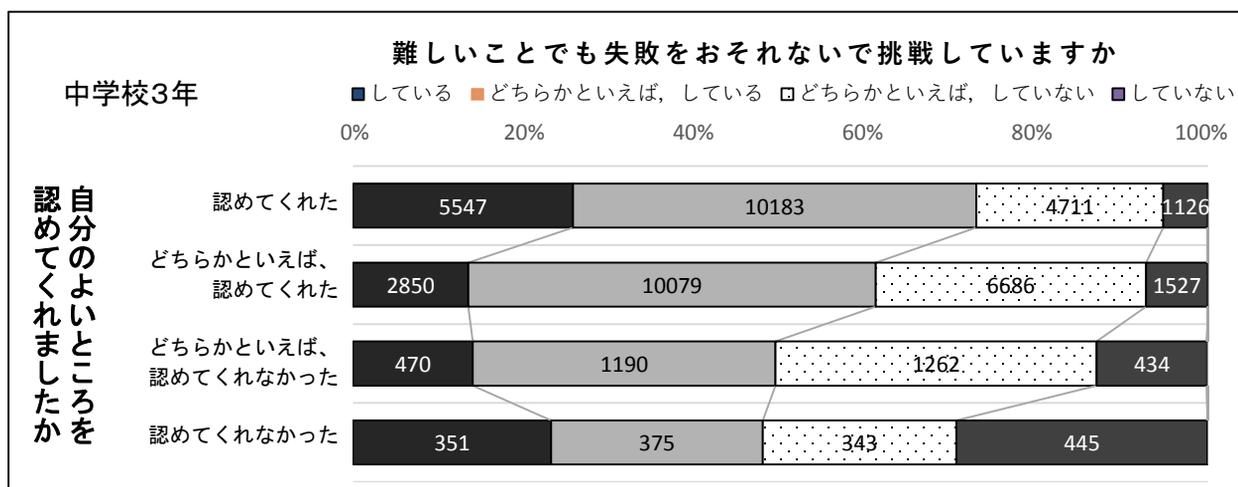
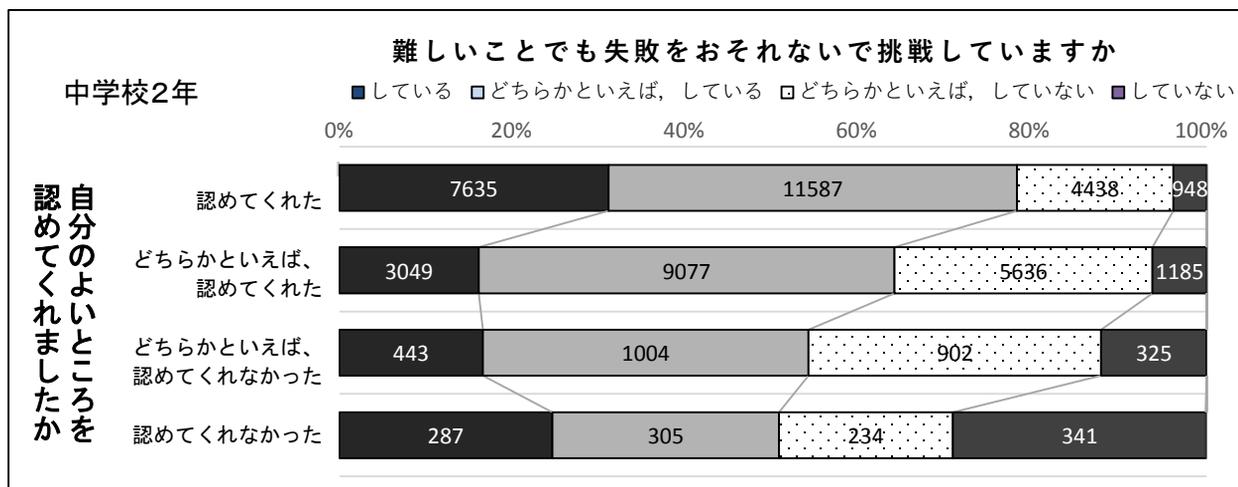
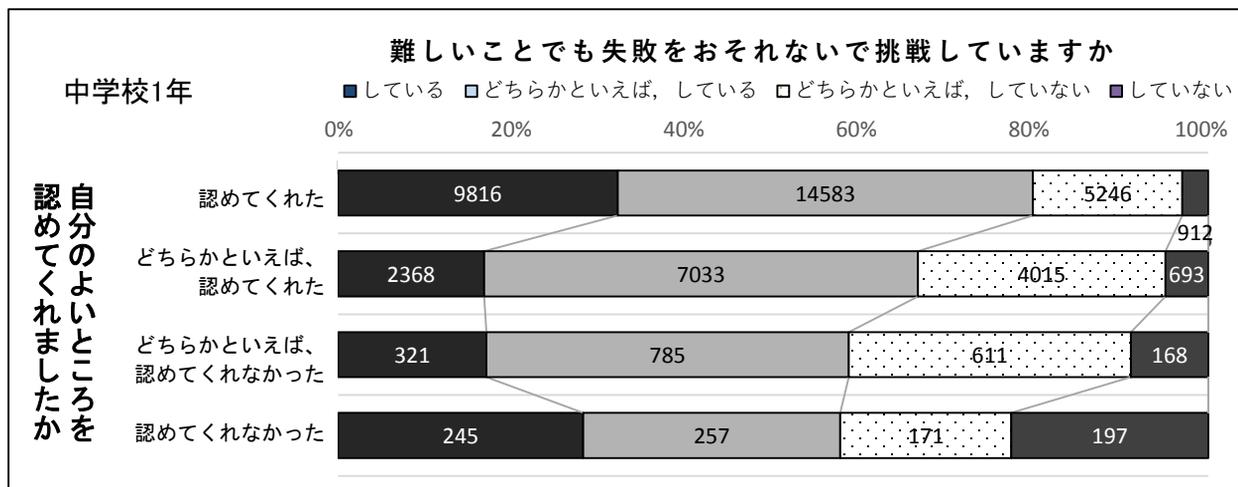
各学年を通じて、教員が「認めてくれた」「どちらかといえば、認めてくれた」という実感を持つ子供ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」と回答する傾向がある。

また、小学生、中学生の多くは、教員から認められていることに対して肯定的に回答している。



【先生方へのメッセージ】

- 子供たちは自分の努力やよさを認められたり、ほめられたりすることによって、自己有用感や自信を高めていきます。
- 子供たちに機を逸することなく自信を持たせる言葉かけをしましょう。
- 挑戦して失敗した時に、結果だけでなくその過程や子供の勇気、思いを認めることも大切です。

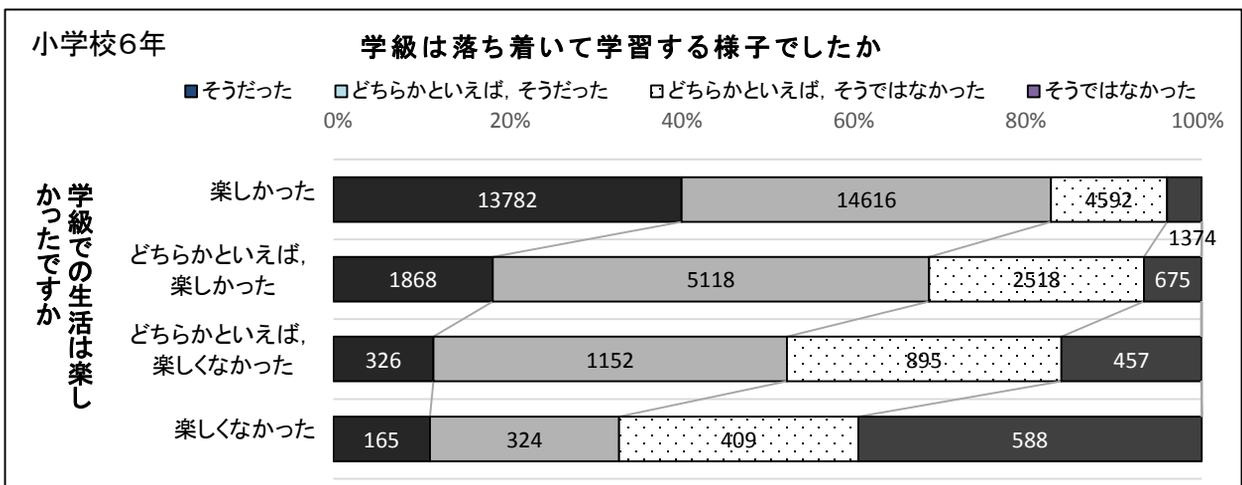
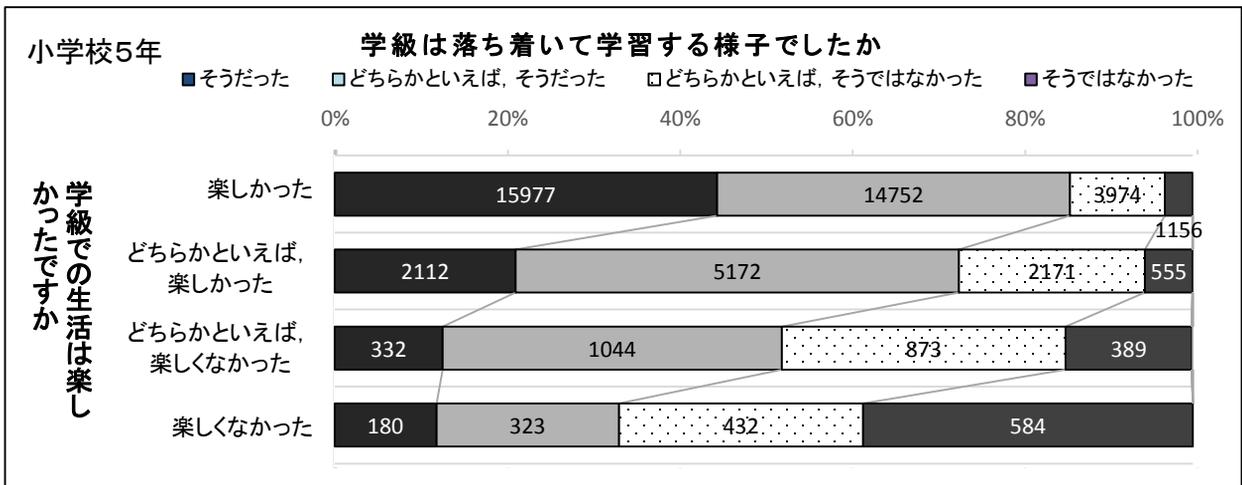
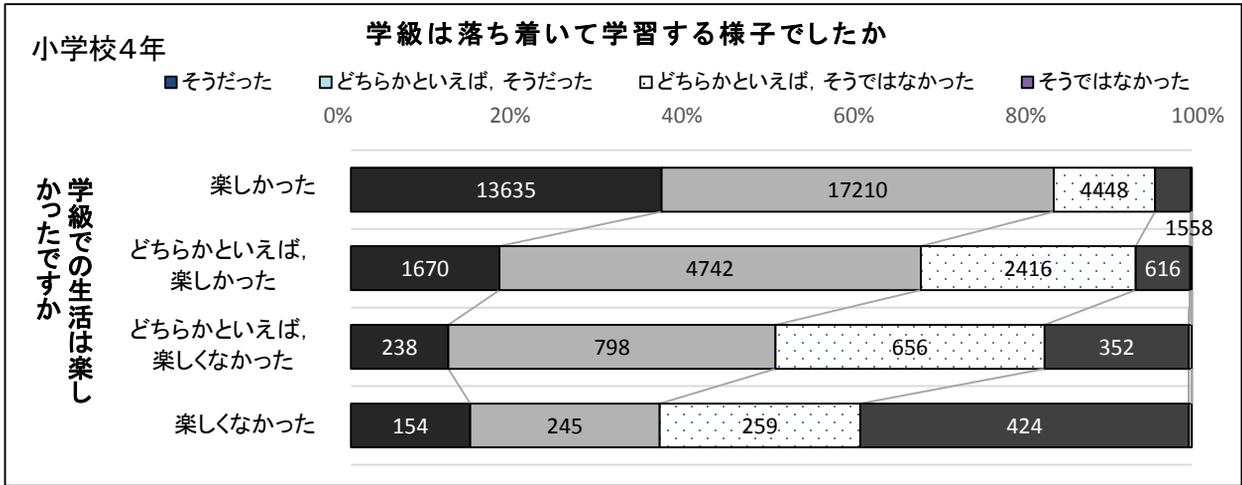


2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」に関する相関

【概要】

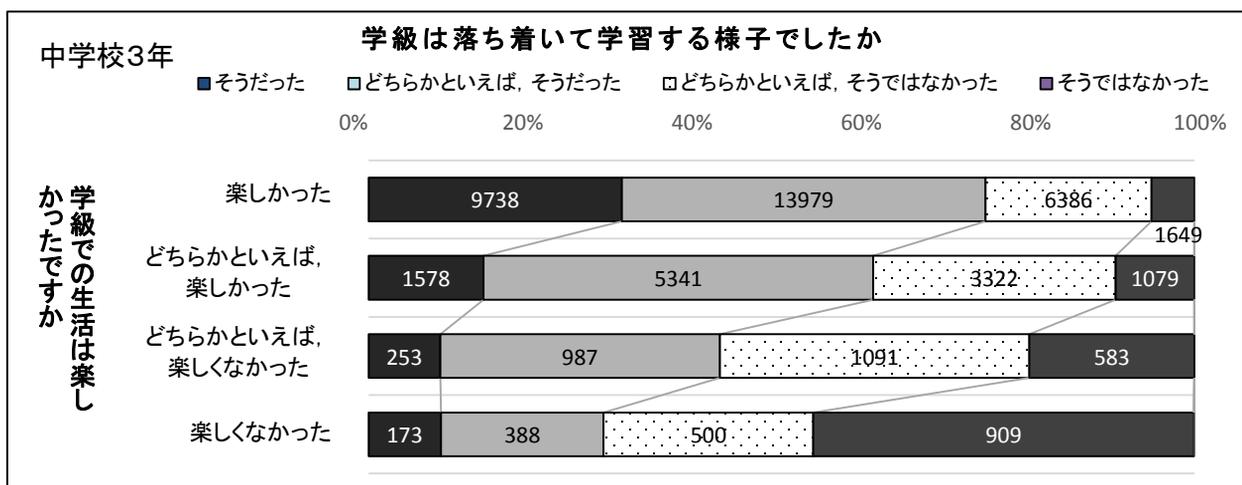
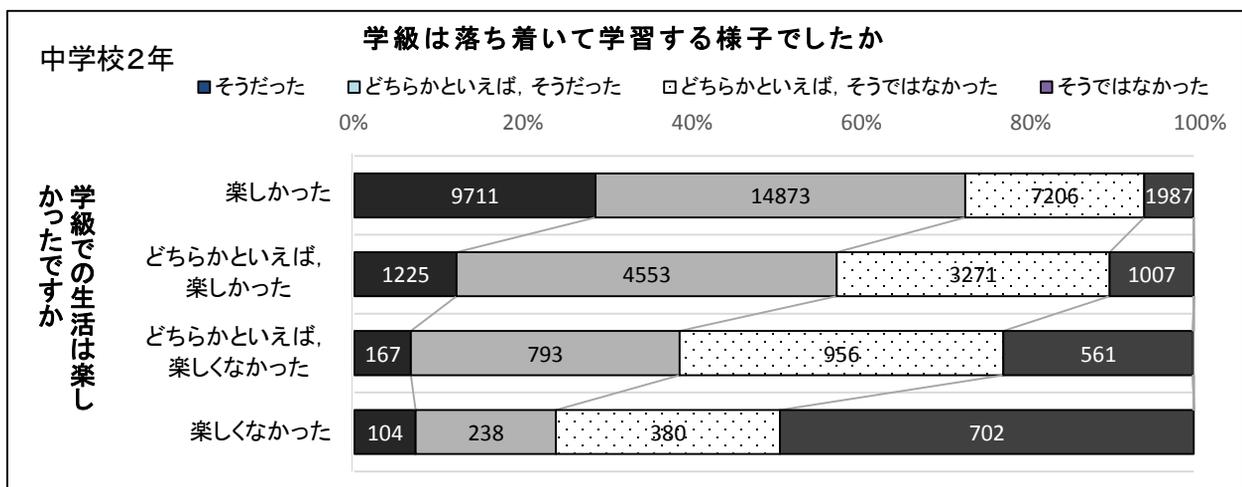
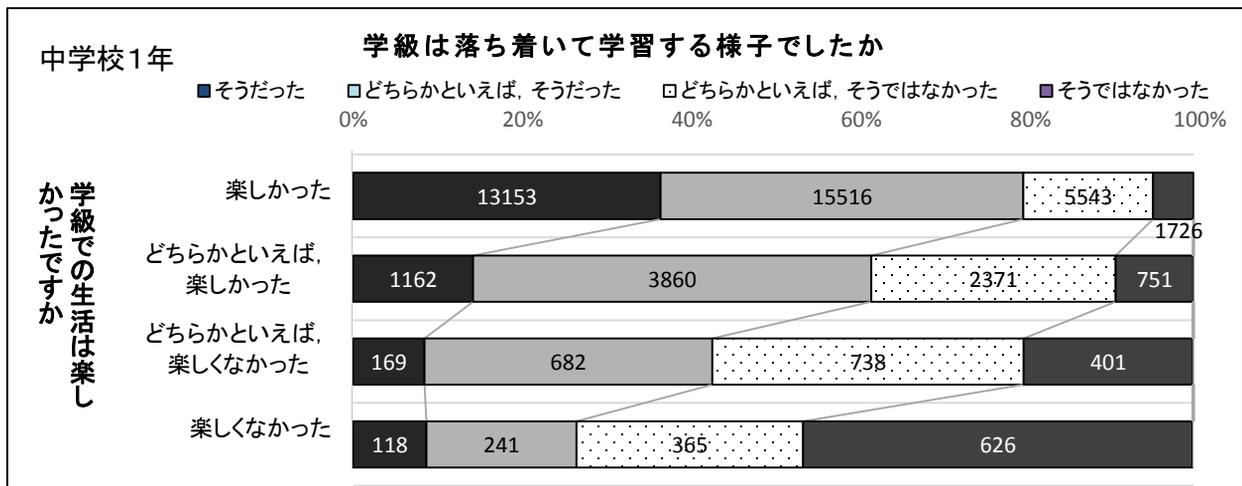
「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒は、学級の様子が落ち着いていたと捉えている傾向がある。

また、「学校での生活が楽しかった」と回答した児童生徒は、全ての学年において、約90%以上となっている。



【先生方へのメッセージ】

- 自分の居場所があり、安心して生活できる学級は、子供たちの心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気醸成します。
- 学級づくりの充実は、学力向上にも効果があります。子供たちが楽しいと感じる学級づくりに日々取り組みましょう。



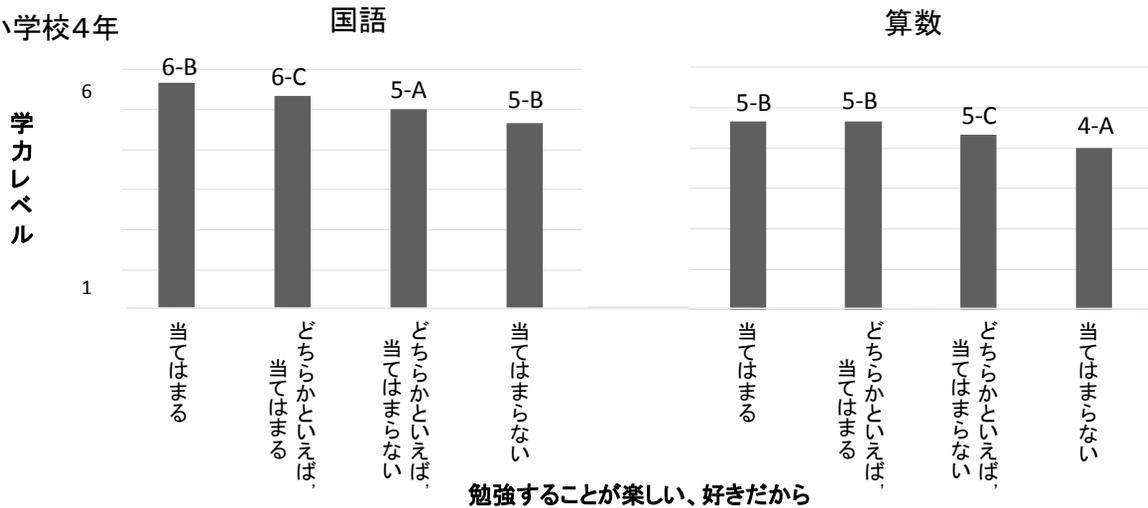
3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関

【概要】

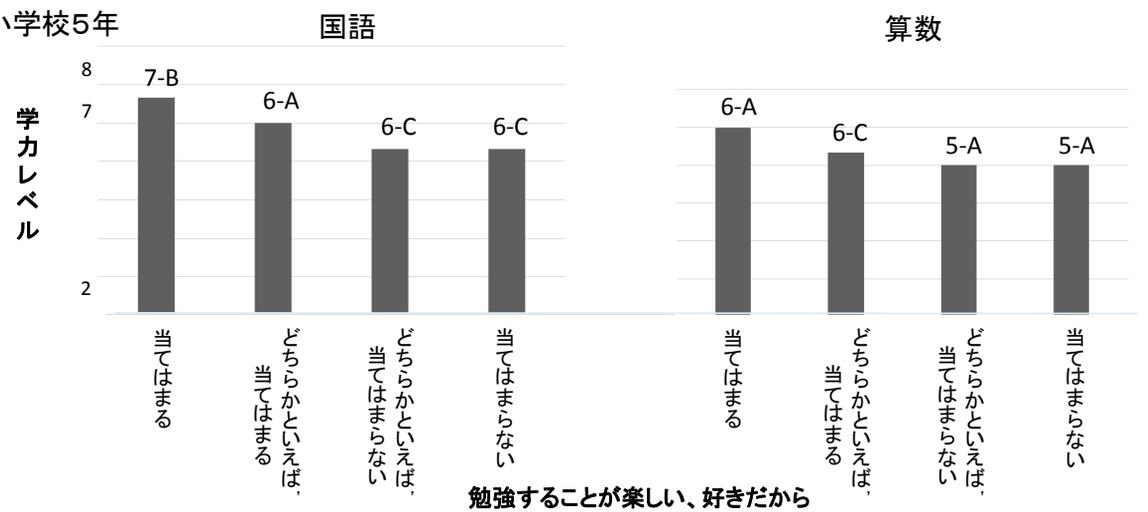
勉強する理由が「勉強することが楽しい、好きだから」と回答する児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが高い傾向がある。

学年が上がっていくと「勉強が楽しい」と感じる児童生徒が減少していく傾向がある。

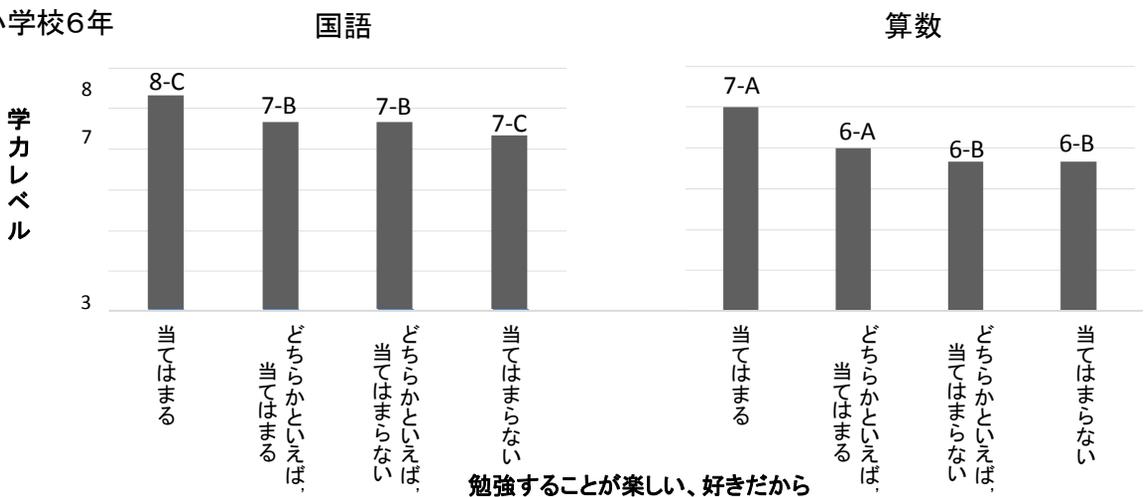
小学校4年



小学校5年

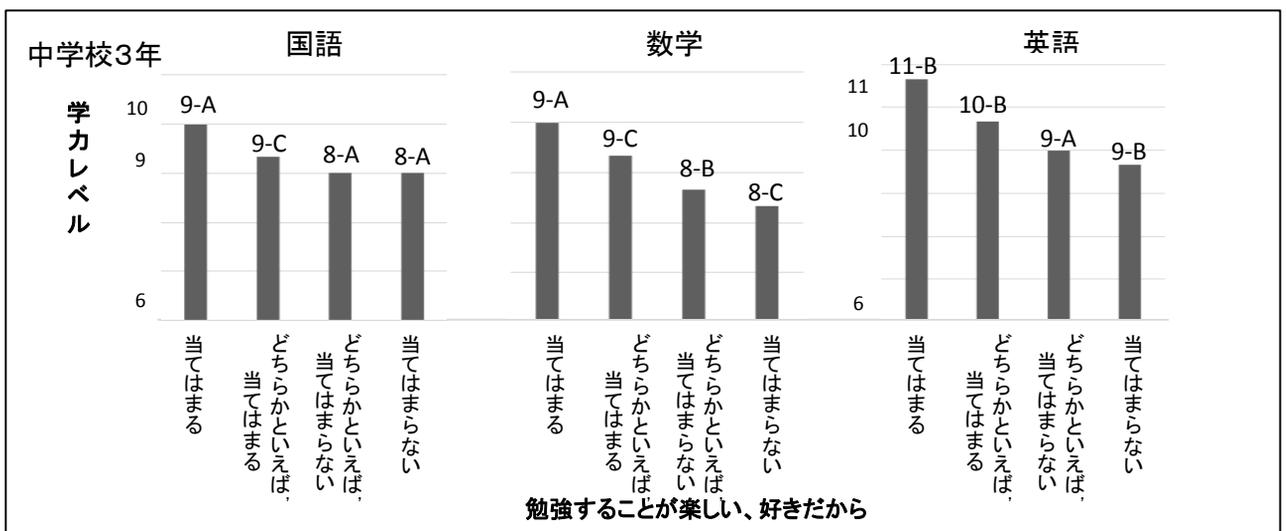
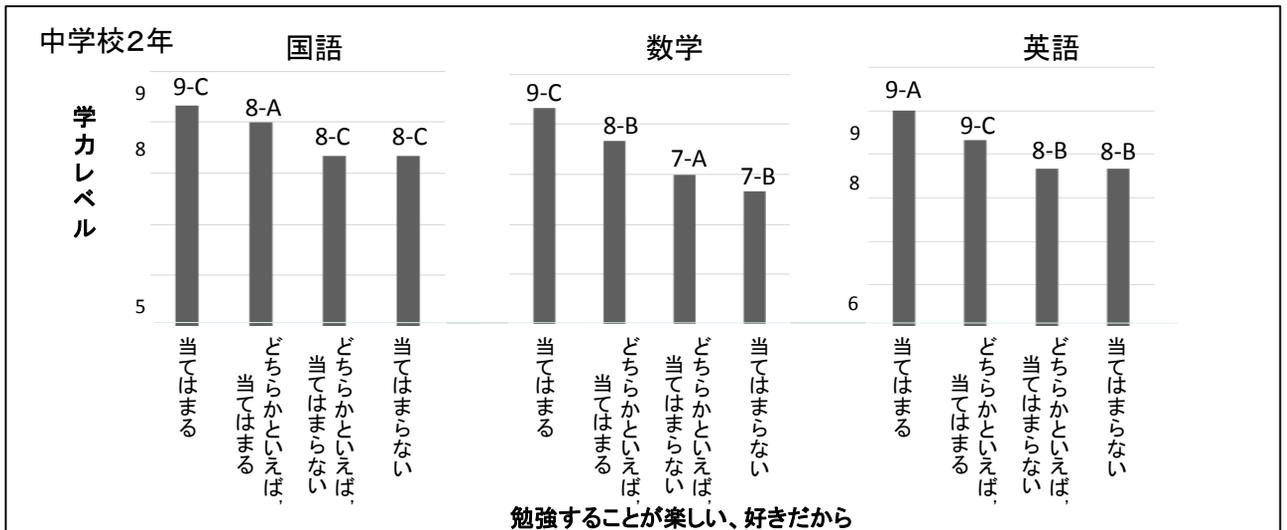
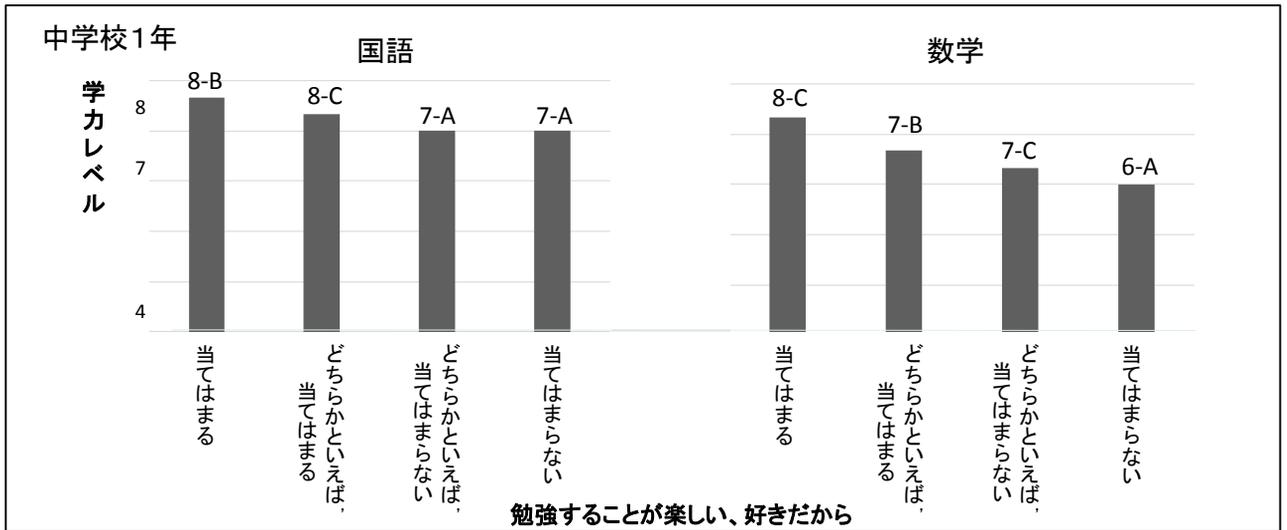


小学校6年



【先生方へのメッセージ】

- 「分かるようになった」、「何かができるようになった」と児童生徒が実感することは、学習意欲の向上につながっていきます。
- 教師が一人一人の子供たちの学習状況を把握し、児童生徒が「分かった」「できた」と実感できる授業を行うことで、児童生徒の勉強することが楽しい、好きだという気持ちが高まり、学力向上につながります。



4 「家庭での生活習慣」に関する相関

【概要】

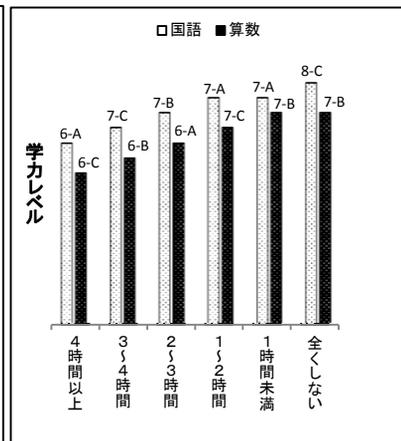
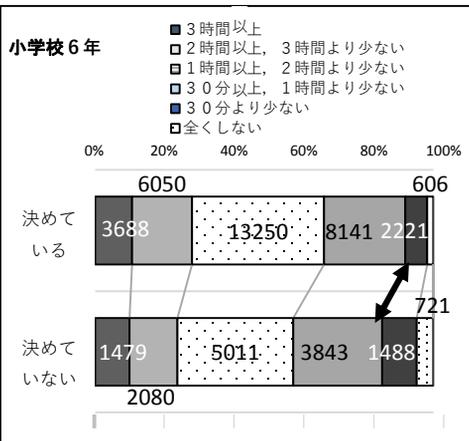
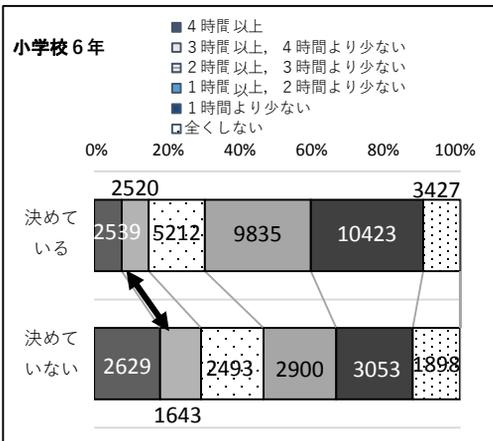
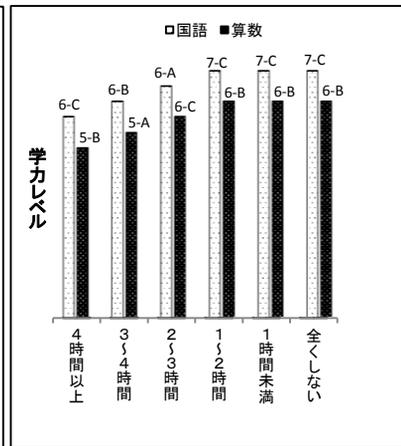
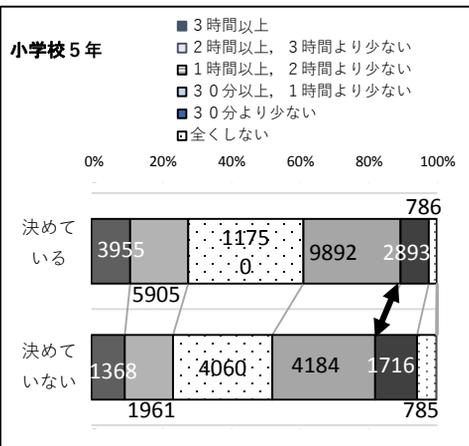
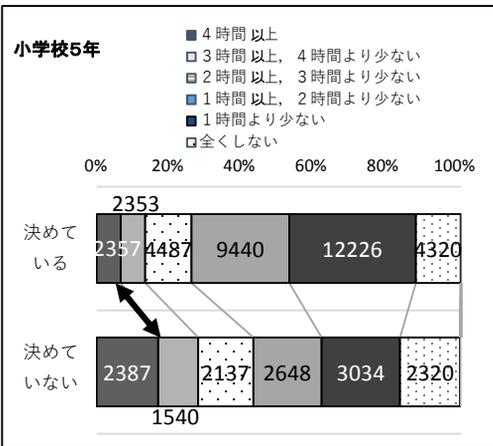
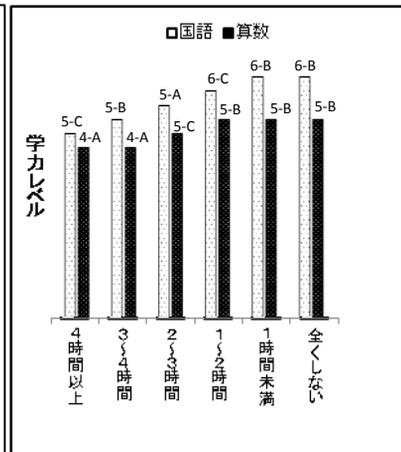
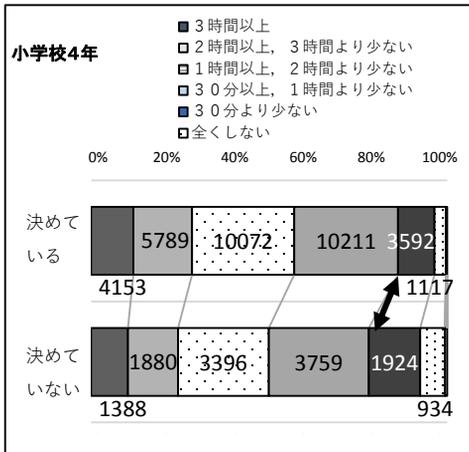
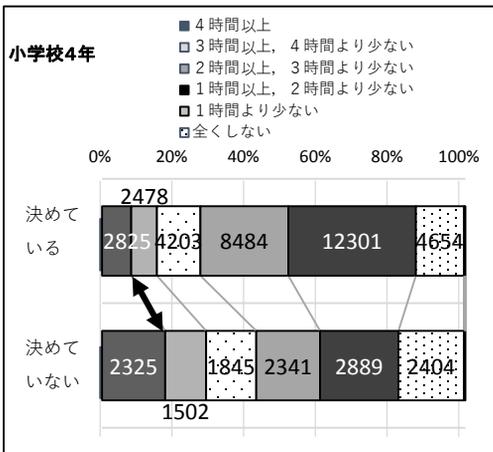
テレビゲーム等について「家の人と約束を決めている」と回答した児童生徒は、長時間テレビゲーム等を行うことが少なく、家庭学習の時間を確保している傾向がみられる。

また、長時間テレビゲーム等をしている児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが低い傾向にある。

テレビゲーム等の時間(月～金)

家庭学習の時間(月～金)

テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



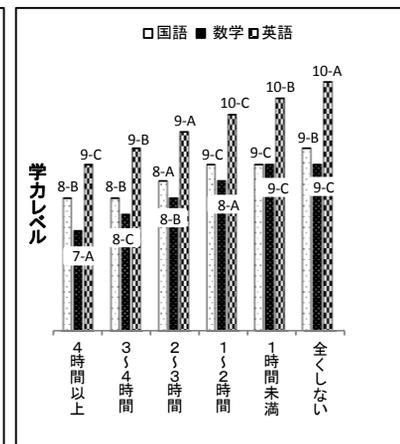
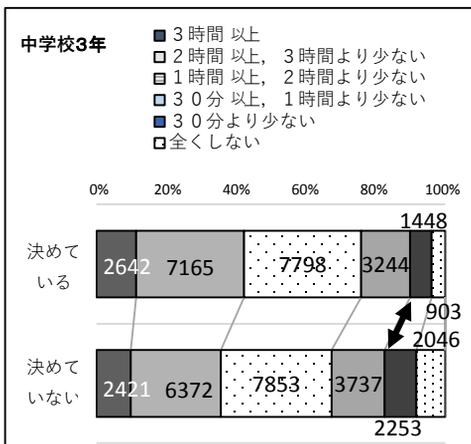
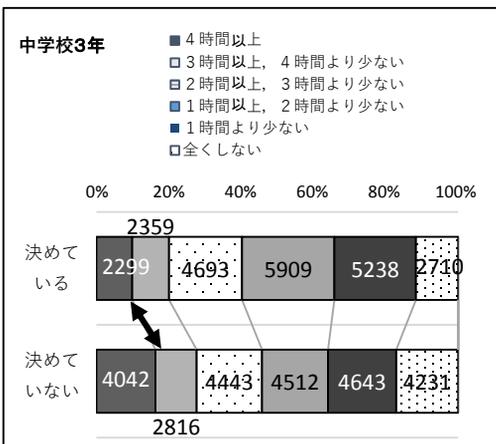
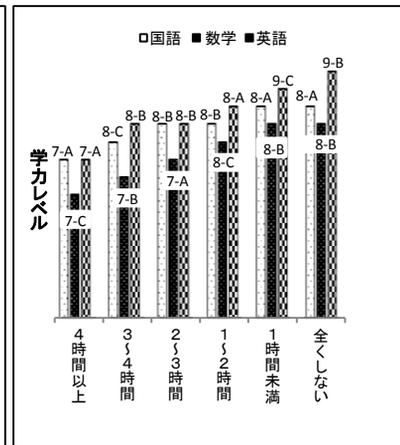
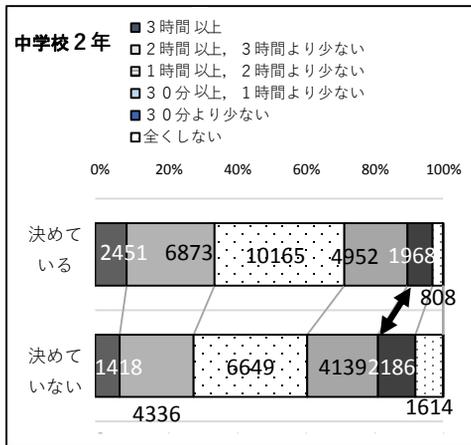
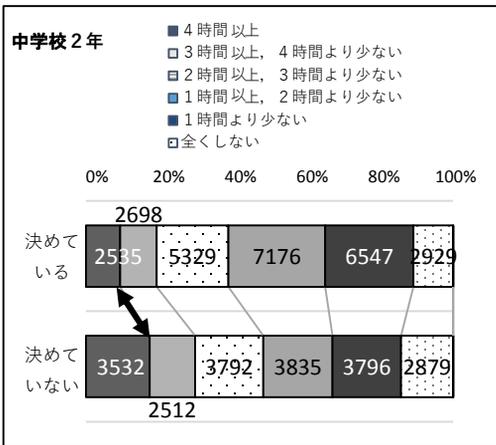
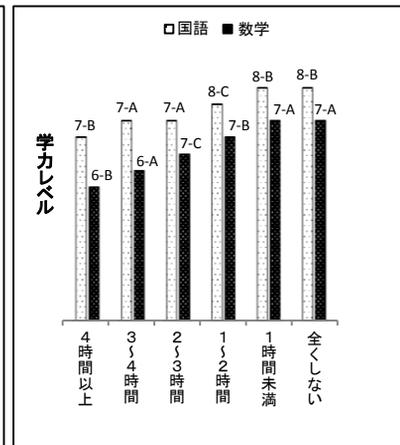
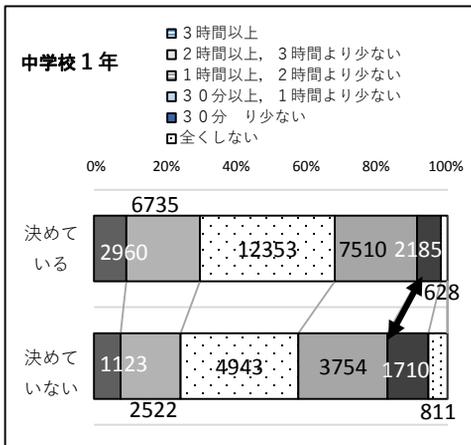
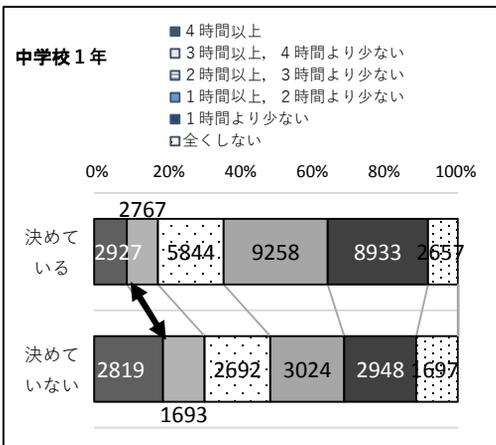
【先生方へのメッセージ】

- 児童生徒が家庭での学習習慣を自分一人で作り上げるのは難しいことです。学校と家庭が連携し、児童生徒が生活習慣を見直すきっかけづくりをしていきましょう。
- テレビゲーム等を行う時間について約束するときは、話し合って約束を決めることが大切です。また、約束する必要性についても確認することで、児童生徒が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことにつながります。

テレビゲーム等の時間(月～金)

家庭学習の時間(月～金)

テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関

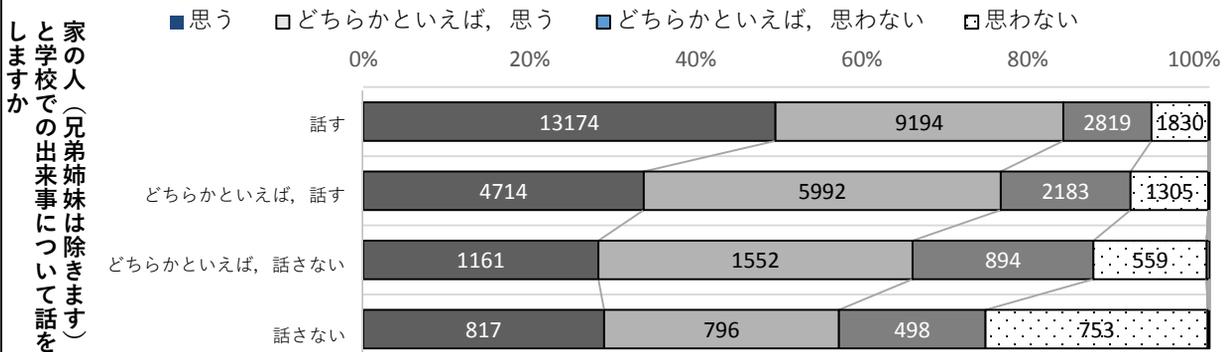
【概要】

各学年を通じて、「家の人と学校での出来事を話す」と回答する児童生徒は、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向がある。

なお、「自分にはよいところがあると思う」、「どちらかといえば、思う」と回答する児童生徒の割合は、学年が上がっていくと減少していく傾向がある。

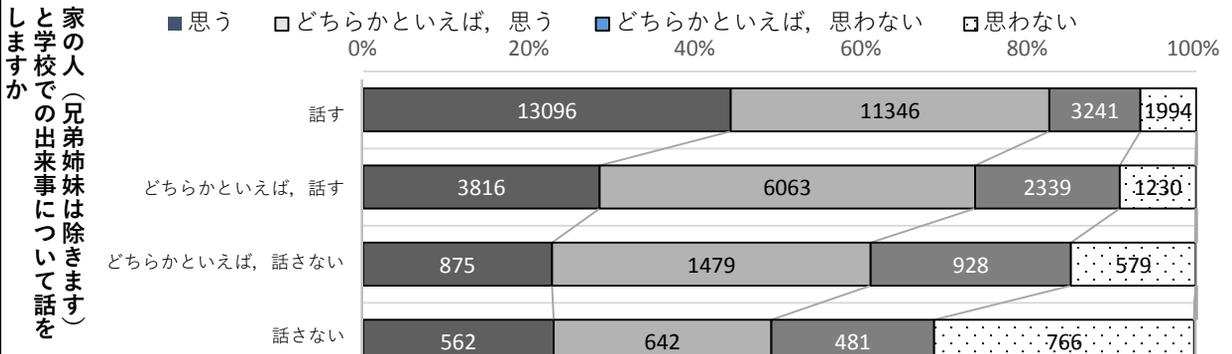
小学校4年

自分には、よいところがあると思いますか



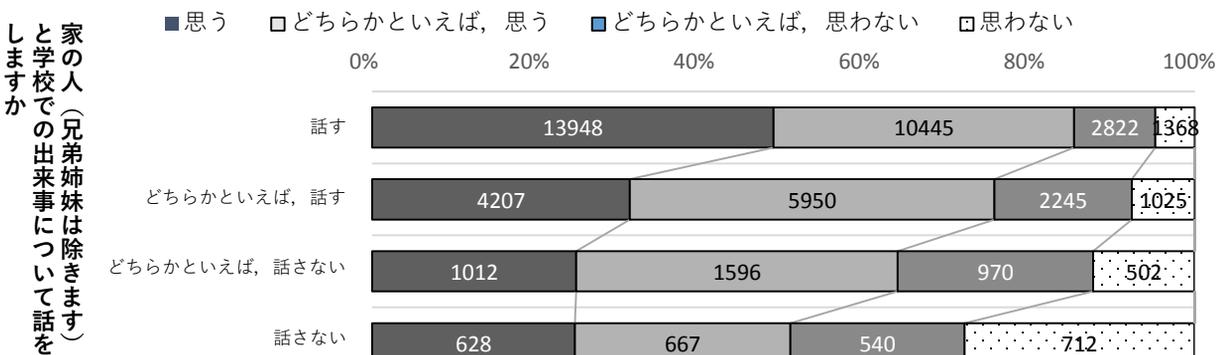
小学校5年

自分には、よいところがあると思いますか



小学校6年

自分には、よいところがあると思いますか

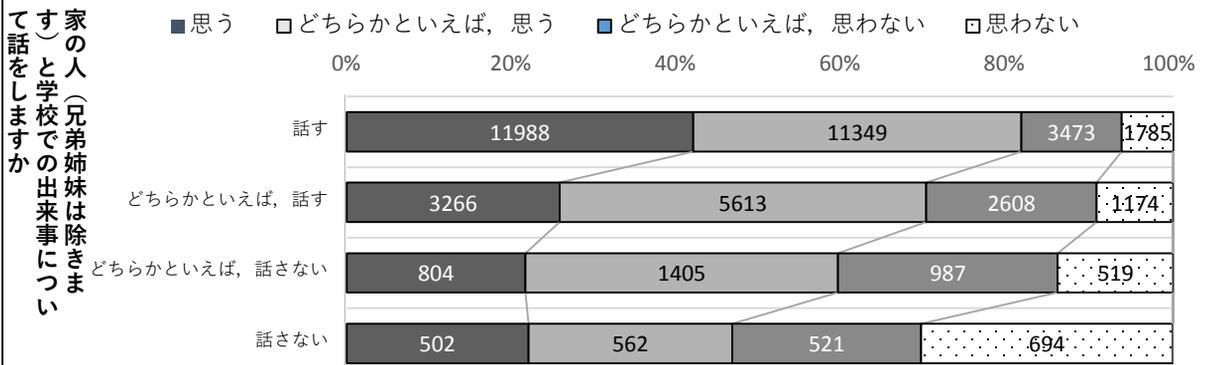


【先生方へのメッセージ】

- 学校での出来事を家庭で話すことで、学習や学校生活を改めて振り返ることができます。
- 学校でほめられることが増えると、家族に話すことも増えてきます。そして、そのことにより、児童生徒の自己肯定感も育っていきます。
- 学校でも家庭でも、児童生徒が自分のよさに気付くために「いいところ探し」ができるように働きかけていくことも有効です。よさを伸ばし、よさを活かすことで自ずとウィークポイントも改善されていきます。

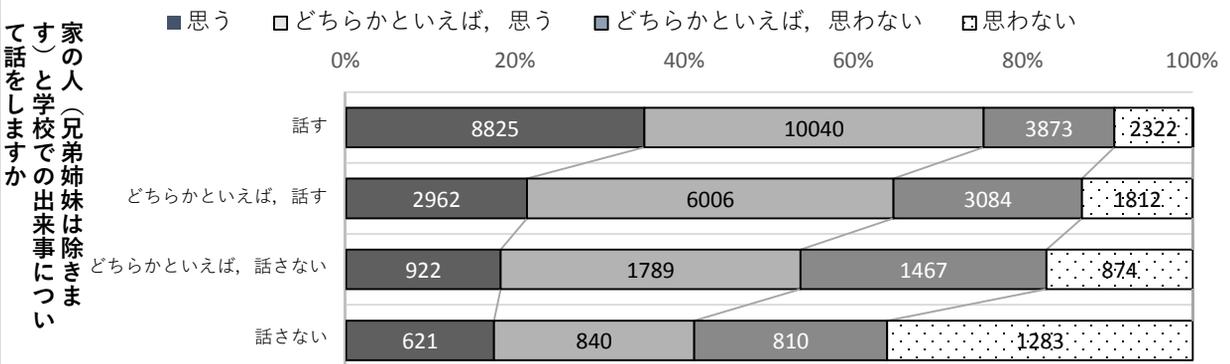
中学校1年

自分には、よいところがあると思いますか



中学校2年

自分には、よいところがあると思いますか



中学校3年

自分には、よいところがあると思いますか

